

① 渡邊義浩 著

## 『人事の三国志 変革期の人脈・人材登用・立身出世』

(朝日新聞出版)

この書籍は、人事制度に関してスポットをあてた、解説書です。人材登用の特徴としては、曹操が「唯才主義」、劉備の「情義と志」、孫権が「地縁血縁」と分析されています。つまり、なぜ魏が勝ち、蜀は破れ、呉は、自滅したのかと、権力と名士の関係軸を更に深掘し、人事制度を知らなくても楽しめ、古今、個々の人々の繋がりが組織や運営に直結することを再認識できる、今までにない見方の書です。構成としては国のかたち、制度、社会が大きく変わるなかで、時に熱く、時に冷酷な人事による、乱世を生きた英雄たちの変革期の「身のふり方」に迫った書です。この書籍から、仕事のヒントを得られるのではないのでしょうか。(M.F)

222.043 ||Wat

③ ヒュー・ロフティング 著 福岡伸一 訳

## 『ドリトル先生航海記』

(新潮文庫)

齢180歳を超えるオウムのポリネシアから「動物語」の手ほどきを受け、世界で唯一動物の言葉を話すことができるようになった動物のお医者さんであり、人間のお医者さんであり、博物学者でもあるドリトル先生。

これは、そんな先生を取り巻く助手や動物たちが、各々の能力を活かして協力しあったり一緒に冒険したりする、わくわくどきどきの物語。

日本語訳は、井伏鱒二が翻訳を手掛けたものが最も有名で現在でも普及していますが、このたびそれを愛読していた生物学者である作者が新訳。皆さんも少しの時間童心に返って、先生たちと冒険してみませんか？ (M.T.)

933 ||Lof



② あまおかけい 著

## 『大人の教養としてのロシア王朝物語』

(八坂書房)

ロシアという国名が、16世紀以前のモスクワ大公国の支配領域「ルーシの国」に由来することはご存知でしょうか。本書は、ロシアと呼ばれるようになった16世紀頃から最後の国王となるニコライ2世の20世紀前半までを中心に描いています。

マトリョーシカをイメージしたケーキやバレエなど、ロシアならではの文化や芸術に関する記述も見逃せません。歴代王朝が所蔵していた財宝も、女帝エカチェリーナ2世の寵臣の一人が寄贈したとされる「オルロフダイヤ」やロマノフ王朝の「インペリアル・イースター・エッグ」など数多く、いずれも驚愕に値する物ばかりです。

タイトルこそ「大人の教養」ですが、文体は決して堅苦しくなく、ロシアについて余り知識の無い人でも親しめるものになっています。(H.I.)

238.05 ||Ama

④ ジェイク・ナップほか 著

## 『人生が本当に変わる「87の時間ワザ」時間術大全』

(ダイヤモンド社)

毎日のto doに追われて「本当にやりたいこと」のために時間がとれていないあなたへ。アメリカ人の一日平均テレビの視聴時間は約4時間。平均スマホ使用時間も約4時間。こんなに忙しく注意散漫な状態が当たり前の中で、一体私たちはどうやって本当に大事なことのために時間を作れば良いのか？ 答えは、意志の力でも生産性でもなく「デフォルトを変えること」にあった。例えば、SNSアプリ等を削除し「気の散らないiPhone」を作ってしまうこと。スマホに使われるのではなく、主体的に使うことを目指すこと。クリエイティブに成果を出しながらも人間として本当の豊かさを追及するために、Google出身の2人が遊び心満載で紹介する、最新時間術の決定版！ (N.S.)

159 ||Kna